

慈眼寺

整備だより

第七号

平成十五年十二月

慈眼寺整備委員会

委員長 大野悟

あいさつ

整備委員長 大野悟

今年は夏の長雨、秋の日照り、冬も暖冬気味で一年間不順な天気が続いておりますが、皆様お変わりありませんか。日ごろは、慈眼寺整備委員会にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、何度もご期待くださいと申してきました慈眼寺の整備も、庭園の工事、歴代住職の墓、観月苑という合祀墓も完成し、見違えるような立派なお寺に生まれ変わりました。

この後、私は落慶式、晋山式を来年（平成十六

年）十一月二十七、二十八日に行うことを考えておりますが、各地区を代表する委員や、顧問の方々に支えられて、皆様の納得いく式典を行いたいと思っております。

私は、曹洞宗の仕来りについてはまったく分かりませんが、九月の初めに慈眼寺の本寺である小牧大草の福厳寺へ住職および庶務の伊藤委員と出向きご挨拶方々、式典のお願いをしてまいりました。福厳寺方丈のお話によりまして、曹洞宗はいろいろな行事の作法を大切にするとということと身引

き締まる思いをいたしました。また、何分始めて聞く言葉ばかりで大変困惑もいたしました。住職初め、協力いただくこの地区の寺院のご住職方と緊密な打ち合わせをして進めたいと思っております。

また、以前より皆様からお問い合わせいただきました稚児行列も委員の皆様のご了解をいただき、実施することになりましたのでぜひともお子様やお孫さんの参加をお待ちいたします。

最後になりますが、穴橋町の新家香澄様より客殿ホールの桧のテーブルを、また菅大臣町の柴本寛夫様より松の庭木をご寄進いただきました。お礼方々報告させ

ていただきます。

整備事業もお寺も皆様のご支援により成り立っております。どうか今後ともよろしくお願いいたします。



委員 伊藤秀文

私は、今夏縁あって下市場の御嶽講の皆さんと初めて御嶽参拝登山に参加しました。登山の目標は、下市場の誕生講

の霊神場という当地の先達霊神が祀ってある所だそうです。八月三日、朝七時に神明社に集合、御嶽社に道中安全を祈願して出発。総勢五人、気心の知れた者ばかり。高速道路を木曾路に向

かって快走。天気も上々。高速道路を下りるとまず「里の宮」という御嶽下社に参拝。途中眼病に霊験あらたかという八海山大神で岩清水を頂戴。ここで関田講の人達と合流。昼食後ロープウェイに乗る。参拝登山も高齢者が多くなりこ

ういう設備が有難いものです。霊峰御嶽の勇姿や、周りの山並の広大な眺めに、開山覚明霊神を偲びました。この覚明行者は春日井市内現在の牛山町出身です。

ゴンドラを下りてここからは健脚がものを言う。九十九折を数珠繋ぎになって「六根清浄」と唱えつつ登る姿はなかなかのものです。八合目を過ぎて暫く行くと目指す霊神場。皆がそろったところでいよいよ参拝祈願。お供え物を据えて、先達霊神に登山の報告。皆さんの家内安全や健康祈願をいたしました。関田の人たちは、さらに頂上を目指しますが、我々はここから下山。本懐を遂げた後の足取りの軽いこと。

日焼けで顔が少し赤くなった程度で疲労もなく大変楽しい思い出になりました。有難い体験をさせてもらったところで、私のこれまでの信仰環境について考えてみました。

私は、中学、高校ともキリスト教の学校でしたので、学校では聖書を読み、賛美歌を歌いイエス Kristus を礼拝しました。家が帰ると代々慈眼寺の檀家で、ちゃんと仏壇もありました。

やがて時代が移って当地も区画整理が施工され、これに伴って墓地の改修建設や、お宮の再建がなされて、何れも建設委員として微力ながら一所懸命協力いたしました。お宮の完成後は氏子総代として奉仕し、

境内の清掃も率先して努めます。また三年前から始まったお寺の整備事業も整備委員として協力させてもらっています。おかげで昨秋、曹洞宗の開祖道元禅師の七百五十回大遠忌団参に加わり、永平寺と能登総持寺にお参りさせていただきました。

こんな具合に、地区の新旧の宗教事業や、儀式にいろいろと関わっておりすが特に、何かの狂信的な信者になるつもりはありません。初詣と同じように、ごく普通の信仰の仕方です。自然な心で向かい合っていければと思います。そういうことが、気持ちを落ち着かせて健康で平和な日々を送れる元になるような気がいたします。

慈眼寺整備に思う

檀方総代 伊藤辰男

私は、昭和三年生れです。から青春時代は戦前から戦後にかけてであります。当時高等科二年を卒業する年齢（現在の中学三年生）になりますと下市場の青年会に入会することが義務付けられておりました。お盆になりますと、その青年会が中心となってお寺の境内に提灯山をつくり盆踊りを盛大に行いました。当日は十店以上の夜店も出て大変にぎわったものです。提灯山の中心になる柱は、大変長くて大きいため普段は本堂の床下に保管されておりましたので、入会したばかりの私ら若い連中で床下から引き出し、また終わってから

押し込んだものです。その際、毎年のように思ったことは床下の土台柱が無残にも白蟻に食い荒されておりました。今にも本堂が倒れるのではないかと、若いながらにも心配したものでした。この度の慈眼寺整備にあたり、計画の段階から若いときに心配していたことを思い起こし、建て直さなくてはという気持ちを強く持ちました。

戦後に草葺屋根からトタン葺屋根に取り替えられたものの、伊勢湾台風にも耐え、よくも今まで倒壊せずにいたものと思われまします。

また、庫裏では青年会の総会や消防団の出初式の会食料理を用意したのですが、ただただ広いだけで床、天井壁等

は煤で真っ黒になっており、照明もなく暗い所で、庫裏とは名ばかりだったように憶えております。

また、昭和三十年頃まではお寺の周囲は竹やぶで囲まれておりましたが、やがて下市場区画整理も完了し、先に山門だけは立派に建替えられました。本堂や庫裏とその周囲は取り残された感があり、そのことについて檀家の皆様から意見や要望、あるいは苦情等が寄せられるようになってきました。

そして、今から三年前に整備委員会が立ち上げられ、檀家の皆様のご好意とご浄財により、また大勢の皆様のご尽力により本堂および客殿は立派に完成し、庭

園を含めた境内地の整備もほとんど出来上がつてきました。

この美しく生れ変わった慈眼寺を末永く後世まで残していきたいと思っております。

本堂に使われた櫓を使って数珠を作り皆様にお配りできる予定です。ご期待ください。



記念数珠

写真集

ここでは外構関係の写真をお見せします。

これは庭園造成前の写真です。整地した時点で客殿全体が見渡せました。それまでは雑木が鬱蒼と茂っていました。このような姿を見られるのは今回だけです。



庭園全景

平成十五年九月



木曾石の親子灯籠で高さ三メートルあります。



柴本氏寄贈の松



参道の基礎工事



マキの木の吊りこみ



慈眼寺の本堂・客殿と同じ国産の最高級木材を使って 格安で一般建築も請け負います ぜひご相談ください

桧のにおいのする本格的な木造住宅

有限会社 **田辺建設** 電話 0533-86-5475



聖観音像



観月苑の工事



石碑 左整備事業記念
右伊藤太吉翁顕彰碑



観月苑全体



右マキ 左枝垂桜



歴住塔

慈眼寺から
十六年よりお仏供膳を書面による申込み制にします。一年一膳千五百円です。きめ細かな対応ができるようになります。用紙は慈眼寺にあります。本年中にお申し込みください。ご不明な点はお問い合わせ下さい。

エイブル

**アパート
マンション
店舗、事務所
売買**

F C 勝川店
大島 安次郎
代表取締役
宅地建物取引主任者

株式会社光コーポレーション
春日井市八光町1丁目17番地
〒486-0916
TEL 0568-36-2333 FAX 0568-36-2332
愛知県知事(1)第18279号
携帯:090-1827-0731

会計報告

会計 伊藤久幸

平成十五年十一月末日現在の状況について報告します。

（収入の部） 寄付勸進の申し込み期限は一応平成十五年三月末日をもってすすめてまいりました。お蔭様で檀家の皆様は勿論、ご住職さま始めお寺の御一族の方達やその他関係皆様から多大なご寄付をいただきました。なお期限後も新に勧進に応じていただく人もあり平成十五年十一月末日現在の総口数三、九一一、三口 総金額一九五、五六五、〇〇〇円であります。全金額振り込み済みでありますので収納率百%という有難い結果になっております。なお

土地の売却についても鋭意すすめてまいりまして売却済筆数三筆、売却代金一一四、〇一一、五〇〇円を収入に加えさせていただき合計三〇九、五七六、五〇〇円になります。

（支出の部） 本堂関係が一二九、五三〇、〇〇〇円 客殿・納骨堂関係が五五、七五〇、〇〇〇円で支出済額一八五、二八〇、〇〇〇円支払いました。残額については現在すすめております庭園始め境内地整備に一部既に充当しつつ、最終の晋山式並び落慶式に充当を予定致しております。

本堂の廊下に「平成整備事業寄付単」を作成し御芳名を掲げさせてもらいました。御詣りの節

にご覧下さい。皆様のご協力に感謝しております。

編集後記

慈眼寺整備だよりも今回で七号。本堂の上棟式の際は特集号を発行しましたから通算すると八回目。元々だよりの目的は檀家のみなさんへ整備事業の進捗状況をお知らせすることであります。従って寄付勸進状況から始まって工事のすすみ具合は勿論これに伴う支出状況等を事業の節目節目で出来る限り判りやすく、しかも簡潔にお知らせしてきました。これに加えてお寺についてのおもしろい話などを書いていただけてきました。が、それぞれ個性的でいつも大変興味深く編集させ

ていただいております。どうか次号から原稿についても、地元・他所あるいは男女の区別なく広くからのご寄稿をお待ちしております。編集係、お寺、委員長始め役員誰でもいいですからご一報下さい。いただきますいきます。なお、今回は記事が多くて和尚敬白は割愛させていただきます。（編集子）

「慈眼寺整備だより」第7号

発行日 平成15年12月20日

発行人 春日井市下市場町5-7

慈眼寺整備委員会

委員長 大野 悟

編集 庶務 伊藤 忍

連絡先 電話 0568 - 81 - 6801